

# 保育園での異文化体験エピソード



## その22 ネパールに生きる子どもたち



イラスト・うつろあきこ

**桜** 井ひろこさんは、仙台市で長年保育士を続けてきましたが、思うことがあって、毎年5か月間、ネパールのサチコール村を拠点に、ボランティア活動をはじめてもう11年になります。

「この村では人間の力だけで生活をしています。最初は、縄文時代に迷い込んだようでしたが、子どもの瞳は本当に輝いていて、びっくりでした。

赤ちゃんはオムツなしで育てられ、7、8歳になればもう一人前。草刈り、子守り、家畜の世話などを分担しています。大人が家畜を捌くときもみんなの前で行うので、見ているのも学習。命との向き合い方を教わりました。よちよち歩きの子が鎌を持って歩いていても、そっと見ています。危ないと感じたときは手を出しますが、体験させているのですね。

子どもたちと草刈りに一緒に行ったときのこと。5、6人一緒に、単独行動はしません。草刈り場に着くと、歌を歌いながら作業に取り組みますが、相手の歌が聞こえなくなると、心配してその子を呼びます。返事があれば、またみんなで歌い出します。お互いに、相手を確認しながらの作業なのですね」

お話の中には感動することがたくさんありました。  
(湯浅とんぼ／全私保連保育国際交流運営委員会特別委員)

### 「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp